

## 1:25,000 活断層図 濃尾断層帯とその周辺

のうごうはくさん  
「能郷白山」 解説

濃尾断層帯は、両白山地から濃尾平野北方にかけて概ね北西－南東方向に延びる断層帯で、温見断層、濃尾断層帯主部、揖斐川断層帯および武儀川断層から構成される（地震調査研究推進本部地震調査委員会，2005）。本図には、濃尾断層帯を構成する温見断層、濃尾断層帯主部に包括される根尾谷断層および黒津断層、揖斐川断層帯に包括される揖斐川断層のほか、オリ谷断層や複数の推定活断層が記載されている。

温見断層は、福井県今立郡池田町から大野市南部を経て岐阜県本巣市北部に至る断層である（地震調査研究推進本部地震調査委員会，2005）。本図においては、大野市の白谷付近（図郭西端）から温見峠を経て、本巣市根尾下大須付近まで北西－南東方向に分岐断層を伴いながら延びる長さ約 19 km の南東部区間が記載される。段丘面や山地斜面を変位させる低断層崖が断続的に認められるとともに、さまざまな大きさの河谷に明瞭かつ系統的な左屈曲が確認されることから、左横ずれを主体とし北東側隆起（南西落ち）の上下変位を伴う確実な活断層とした。本図内の温見断層沿いでは複数箇所第四紀後期の堆積物を変位させる活断層露頭が報告されている（吉岡ほか，2001；佐々木・上田，2012）。

根尾谷断層は、福井県大野市南部から岐阜市北西部に至る断層である（地震調査研究推進本部地震調査委員会，2005）。本図においては、福井県大野市と岐阜県揖斐川町の境に位置する能郷白山の南西部から本巣市根尾まで分岐断層を伴いながら北西－南東方向に延びる長さ約 12 km の中北部区間が記載される。段丘面や山地斜面を変位させる低断層崖が断続的に認められるとともに、さまざまな大きさの河谷に明瞭かつ系統的な左屈曲が確認されることから、左横ずれを主体とする確実な活断層とした。濃尾地震（1891）時には、能郷白山付近以南の根尾谷断層沿いにおいて地震断層が出現したことが知られている（松田，1974）。また、本図内の根尾谷断層沿いでは複数箇所第四紀後期の堆積物を変位させる活断層露頭が報告されているとともに（松田，1974；佐々木・上田，2012）、能郷白山の南西部では田中ほか（2017）によってトレンチ調査が行われ、本断層が完新世に繰り返し活動していることが確認されている。

黒津断層は、本図から南に隣接する活断層図「谷汲」に延びる長さ約 12 km の断層である。本図においては、本巣市の越新谷付近から同市根尾黒津を経て尾砂谷付近まで、北西－南東方向に直線的に延びる長さ約 9 km の主要部区間が記載される。段丘面を変位させる低断層崖が同市根尾黒津付近に確認されることや河谷に系統的な左屈曲が認められることから、左横ずれを主体とし、一部に南西側隆起（北東落ち）の上下変位を伴う確実な

活断層とした。断層中央部の根尾黒津付近では、濃尾地震（1891）時に地震断層が出現したことが報告されている（松田, 1974）。また、根尾黒津付近の段丘面上では高木ほか（2017）によってトレンチ調査が行われ、3～4 万年前以降に少なくとも 2 回の活動があったことが確認されている。

揖斐川断層は、岐阜県揖斐郡揖斐川町から本巣市に至る断層である（地震調査研究推進本部地震調査委員会, 2005）。本図においては、揖斐川町の徳山湖付近から本巣市小倉付近まで北西－南東方向に伸びる長さ約 5 km の一部区間が記載される。本図内に第四紀後期の地形面を確実に変位・変形させている箇所は確認できないが、西に隣接する活断層図「冠山」への延長部では段丘面を変位させる低断層崖が認められることや本図内でも複数の河谷に左屈曲が認められることから、左横ずれを主体とする確実な活断層とした。

揖斐川断層と根尾谷断層の間には、本巣市の白谷から根尾長島付近に至るほぼ東西走向の短い断層が分布する（長さ約 3 km）。第四紀後期の地形面を確実に変位・変形させている箇所は確認できないが、河谷の右屈曲などの地形的特徴に基づき、推定活断層とした。

オリ谷断層は、本図の東南域に位置し、山県市白岩付近から分岐断層を伴いながら北東方向に本図の外側（東側）まで伸びる断層である。本図内での長さは約 5 km である。山地斜面を変位させる低断層崖や河谷の系統的な右屈曲が認められるとともに、本活断層図作成のための現地調査で第四紀後期の堆積物を変位させる活断層露頭が確認されたことから、右横ずれを主体とする確実な活断層とした。

本図の北東端付近では、大野市のカン谷付近から猿塚の南側を経て東へ至るほぼ東西走向の断層が横切る。本図内での長さは約 7 km である。第四紀後期の地形面を確実に変位・変形させている箇所は確認できないが、河谷の右屈曲や鞍部列などの地形的特徴から推定活断層とした。

また、本図の中東部には明神山北西から本巣市根尾下大須付近に至るほぼ南北走向で長さ約 6 km の断層が分布する。この断層についても第四紀後期の地形面を確実に変位・変形させている箇所は確認できないが、山地斜面に極めて明瞭かつ直線的な傾斜変換線が認められることから推定活断層とした。

（千葉大学准教授 金田平太郎）

## 引用文献

佐々木俊法・上田圭一（2012）：活断層の連動性評価のための指標の抽出（その 1）—変動地形学のおよび地表地質調査に基づく断層分布形状と変位分布の検討—。電力中央研究所研究報告, N11046。

地震調査研究推進本部地震調査委員会（2005）：濃尾断層帯の長期評価について。

[http://www.jishin.go.jp/main/chousa/katsudansou\\_pdf/60\\_nobi.pdf](http://www.jishin.go.jp/main/chousa/katsudansou_pdf/60_nobi.pdf)（2018 年 3 月 12 日閲覧）。

高木颯汰・金田平太郎・石村大輔・高橋大地（2017）：濃尾活断層系，黒津断層の活動履歴  
～連動破壊におけるその役割～．日本地球惑星科学連合 2017 年大会，SSS12-P15.

田中知季・金田平太郎・井上勉（2017）：能郷白山付近における根尾谷断層北部の断層変位  
地形と活動履歴．日本地球惑星科学連合 2017 年大会，SSS12-P14.

松田時彦（1974）：1891 年濃尾地震の地震断層．地震研究所研究速報，13，85-126.

吉岡敏和・栗田泰夫・下川浩一・石本裕己・吉村実義・松浦一樹（2001）：濃尾地震断層系・  
温見断層の活動履歴調査．活断層・古地震研究報告，1，97-105.